

# 地域金融機関による環境改善

柳田 弘明 (やなぎた ひろあき／大和信用金庫理事長)

近年、各金融機関において「環境金融」への取り組みが広がっている。昨今広まってきたCSR（企業の社会的責任）の観点からも、環境問題に対して金融面から支援していくという考えは、金融機関にとっては今後も重要なファクターとなるだろう。

地域金融機関である私たち信用金庫は、こうした環境問題のみならず、地域社会すべてに関わる課題に対して、常に問題意識を持って取り組んできた。これは全国の信用金庫共通の考えであり、全国信用金庫の役職員全員が「より良い地域作りに貢献したい」という共通のDNAを持って活動していると言っても過言ではない。

そもそも信用金庫は非営利組織であり、株式会社組織の銀行のような営利を求める金融機関ではない。また、信用金庫は地域の方々を利用者・会員となってお互いに地域の繁栄を図る相互扶助を目的とした協同組織の金融機関であり、営業地区も一定の地域に限定され、お預かりした資金はその地域の発展に活かされている。

このように、信用金庫の存在意義は地域社会の発展にあるのであり、地域の中小企業への資金供給による金融の円滑化、及び地域住民の財産作りのお手伝いにより、一人ひとりの豊かな暮らしを実現していくことを使命としている。地域の方々幸せを感じられるような街作りを目指して、全国278の信用金庫において、約12万人の役職員が日々営業活動を行っているのである。

従って、信用金庫にはCSRが叫ばれる以前から、地域社会に対しての社会的責任として地域への貢献を果たしてきており、その意識は今後も何ら変わることはない。そのような中で、地域に根差した金融機関であるからこそ、その地域の課題解決のために汗を流したり、アイデアを出し、解決の

ために意識を変えるべく啓発活動を行っていくことも当然のことであり、これこそ地域金融機関の存在意義の発揮でもある。

当金庫のCSR活動のテーマは、「『Next Generation～未来へ～』次世代のために、私たちは歴史と環境を大切にします。」としているが、これには、古都奈良を事業地域とする当金庫が「持続的発展が可能な地域社会づくり」に貢献するという社会的責任を果たすために、地域の歴史と環境と子供たちを大切にすることを活動の柱としたいとの思いがある。

そこで、当金庫は奈良県の環境問題における課題は何かを考えた。地球温暖化問題のような全世界的な課題よりも、地域住民に関心を持ってもらえ、課題解決のためにみんなで意識を高め合い、協力していけるような取り組みとして着目したのが、全国の一級河川の中で水質の悪さでワーストを争う大和川の水質改善である。

大和川はその昔、古代中国との交易における重要な水路となっており、1400年前には遣隋使一行が大和川をさかのぼり、当金庫の本店所在地である現桜井市を経て、飛鳥の宮に至ったという歴史にもあるように、万葉の昔から人々に親しまれ、昭和30年代まではこの清流で川遊びをする風景が見られた美しい川であった。しかし、大和川上流域は雨水の保水効果のある森林が少なく、年間降水量も全国平均に比べて少ないという地形的・気候的要因に加えて、戦後の高度経済成長における工場進出、私鉄沿線開発による住宅の急増による流域人口の急激な増加に対し、下水道整備とのミスマッチが起こった。結果として、急速に河川の汚染が進み、今では家庭からの生活排水が汚染の最大要因と言われている。

当金庫では、地域住民に見向きもされなくなった大和川の水質改善を願い、水質の改善度合いと定期預金の金利を連動させた定期預金を発売し、各方面から評価をいただいている。商品名は当金庫名にも通じる「大和川定期預金」とした。具体的な商品内容は、河川の水質を表すBOD値の年平均値における前年対比での改善度合いにより、定期預金の金利を上乗せするというものである。

おかげをもって、平成18年の取扱開始後、年々大和川の水質改善が進んできており、過去3回の取扱いの内、2回において金利の上乗せが実現でき、お客さまにも大いに喜んでいただいた次第である。

環境問題は、何よりも一人ひとりの意識付けが重要である。当金庫は、地域の方々に大和川の実情を知ってもらうきっかけとすべく、この定期預金を勤めるとともに、各家庭での生活排水削減を呼び掛け、粗品として水切りネットを渡すことにより、各家庭における実践を促した。

加えて日々憂慮しているのがゴミの問題である。いくら水質が改善してきても、ゴミが溢れる川では誰も近づかない。ましてや上流域である奈良県側のゴミが下流域の大阪府や、海を越えて淡路島沿岸にも流れ着いているとすれば、上流の責任を感じざるを得ない。これこそ住民のモラルが問われる問題である。当金庫では、行政の実施する河川の清掃活動への協力はもちろんのこと、金庫独自の清掃活動も行っている。多くの方が実際に河川のゴミ拾いを体験して初めて環境保護に対する意識が芽生えるのではないかと考える。

また、次世代への啓発活動も重要である。当金庫では、「大和川定期預金」のお預け入れ残高の0.01%を金庫が拠出し、加えて役職員の自由意志による出捐分を合算し「大和川基金」を設立している。この基金では、大和川の再生・水環境の改善に向けた取組みに対して資金を拠出している。

例えば、地域のNPO団体との協働により「ふるさと大和川源流体験ツアー」を開催し、子どもたちが大和川の源流を体験することによって、自然環境の大切さを学んでもらっている。また、「大和川ポスターコンクール」では、同じく子どもたち

に啓発用のポスターを描いてもらい、優秀な作品を表彰している。

これらの取組みは、大和川という地元を流れる河川の水質改善を地域住民に意識していただき、地域の環境保全を住民みんなで図っていくという、地域に根差した金融機関ならではの取組みであるといえる。

大和川の水質改善活動以外にも、“クールビズ・ウォームビズ”運動、少子化対策・子育て支援のための子育て応援預金「ANGEL PLUS ONE（18歳未満の子供が3人以上いる世帯の個人を対象に0.3%の金利上乗せを行う定期預金並びに積金および1%優遇のローン商品）」の発売、子どもたちを守る「こども110番」活動、小学生への金融教育、来るべき高齢化社会に向けた「認知症サポーター」の養成、献血運動、マラソン大会や駅伝大会への協賛等々、さまざまな取組みを行っているところである。

当地、桜井市の三輪山麓にある檜原池の堤防に「大和は 国のまほろば たたなづく 青かき 山こもれる 大和し 美し」（ヤマトタケルノミコト望郷の歌『古事記』より）の歌碑が建っている。この池の堤に立って見渡すと、山々に囲まれた奈良盆地の眺めが一望でき、その間を大和川が流れているのである。

この歌のように、大和は日本のふるさとである。国のまほろばである大和の国の大和川がきれいになるということは、日本がきれいになるということではないかと思う。

この想いが地域に広がってほしいと願うとともに、今後も職員と共に、地域の環境改善に繋がる取組みを進めていきたい。

住所：奈良県桜井市桜井281-11

TEL：0744-42-9001

FAX：0744-46-2661

e-mail：s1667001@facetoface.ne.jp

HPアドレス：http://www.yamato-shinkin.co.jp